

事務事業マネジメントシート(令和 5年度実績と令和 6年度計画)

令和 6年 8月27日更新

事務事業名		御代志地区土地区画整理事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	5 都市基盤の健康				所属部	都市建設部	課長名	木永 和博
	施策	23 計画的な土地利用の推進				所属課	都市整備室	担当者名	坂本 健
	施策の柱	65 計画的な市街地の形成				所属班	土地区画整理班	(内線)	5272
予算科目		会計一般	款8	項4	目7	事業連番11743	根拠法令	土地区画整理法、都市計画法等	
終了、開始年度		☐ 5年度で終了 ☐ 5年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 ☒ 期間限定複数年度 (開始年度 30 年度) ~ (9 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	本市における交通の中心となる御代志駅や国道387号のほか地域医療・文教施設等の公的機能が集積している御代志地区において、土地区画整理事業を展開することにより、駅周辺の交通結節機能の向上や各種道路網の整備とともに、生活サービス機能の向上を目指した商業施設等が立地可能な大街区の創出を図る。これにより計画的な市街地を形成し、市の中心部にふさわしい拠点づくりを目指す。
【業務の流れ】	土地区画整理事業の基本的な流れとしては次のとおりとなる。 ①企画・調査、②都市計画、③事業計画、④換地設計、⑤仮換地指定、⑥移転・工事、⑦換地処分、⑧清算
【主な予算費目】	委託料、公有財産購入費、補償補填及び賠償金、工事請負費等
【意見や要望】	渋滞解消や生活サービスの向上のため早期の事業実施を望む声がある一方で、道路整備に伴う家屋移転等に対し後ろ向きな意見もある。事業への理解を得ていただくための説明も都度行っており、関係権利者の意見や要望は変遷している状況である。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 5年度実績(5年度に行った主な活動)(DO) 事業に支障となる物件等の調査を実施し移転交渉を進めたほか、交渉後の移転補償契約による家屋等撤去、商業施設立地に向けたディベロッパーとの協議、都市計画道路等の工事を進め御代志駅南側交差点については供用開始した。 【基準に達しなかった理由】 委託料：第4回事業計画年度末の雨水排水設計、国県協議に日数を要し、A地区の道路設計に着手できなかったため 工事請負費：3.5m道路(緑道)については、B2、B4店舗工事や国道工事の工程調整により、翌年度に施工することとした。C地区の造成については住宅建築計画などの地権者交渉に日数を要したことから地区内の一部を施工し、残りを翌年度施工としたため 補償補填及び賠償金、地権者移転補償(建物移転)が年度末までに完了しなかったことから、未完了分について翌年度に繰り越したため(繰越明許費：277,278千円)		6年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 支障物件に係る移転補償、業務委託(建物調査・各種測量設計等)及び公共施設整備工事、土地区画整理審議会、国・県などとの関係機関協議
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ア:事業進捗率	%	都市計画道路の完成による工事請負費の減
→イ:		
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	②対象指標(対象の大きさを表す指標)
御代志地区における土地利用	%	→ア:仮換地指定率
		→イ:
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)
地域の特性にあった土地利用がなされる	%	→ア:創出した大街区のうち土地の利活用がなされている割合
		→イ:
*③成果指標設定の理由と 6年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
地域の計画的な市街化に伴い、創出する大街区における生活サービス施設等の充実が必要となることから成果指標を設定した。 次年度の目標値については、街区整備が完了する予定地を対象として設定している。		全体計画 ～9年度
		0

(2)各指標・総事業費の推移											
		単位	3年度 実績(決算)	4年度 実績(決算)	5年度 目標(当初予算)	5年度 実績(決算)	6年度 目標(当初予算)	7年度 予定	8年度 見込	9年度 見込	
① 活動指標		ア %	66.4	78.2	81	71.7	88	94	98	100	
② 対象指標		ア %	71.9	75.7	80	81.4	90	95	100	100	
③ 成果指標		ア %	0	0	50	56.5	75	100	100	100	
投資 入費 量	事業 費 内 訳	国庫支出金	千円	241,080	161,745	109,031	101,803	36,666	20,000	20,000	20,000
		都道府県支出金	千円	191,105	134,470	67,000	228	55,000			
		地方債	千円	245,700	180,800	124,100	122,200	88,100	36,000	36,000	36,000
		その他	千円	2,091	18,203	4,091	4,125	6,391			
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	92,708	809,876	98,896	116,775	43,940	68,396	68,396	68,396
	(A) 事業費計	千円	772,684	1,305,094	403,118	345,131	230,097	124,396	124,396	124,396	
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	人件 費	正規職員従事人数	人	7	7	7	6	7	7	7	7
		延べ業務時間	時間	11,202	10,096	10,000	8,980	10,000	10,000	10,000	10,000
		(B)人件費計	千円	43,799	38,425	39,840	32,705	39,840	39,840	39,840	39,840
	トータルコスト(A)+(B)		千円	816,483	1,343,519	442,958	377,836	269,937	164,236	164,236	164,236

事務事業名	御代志地区土地区画整理事業	所属部	都市建設部	所属課	都市整備室
-------	---------------	-----	-------	-----	-------

2 評価の部（CHECK）

*原則は 5 年度的事後評価、ただし複数年度事業は 5 年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	① 5 年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒ 【理由】
	② 6 年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり ⇒ 【理由】 ☐ 目標達成は厳しい ⇒ 【理由と対策】 事業計画書に基づく進捗管理を行っており目標達成はできると考える。
有効性評価	③ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒ 【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒ 【理由】 区画整理事業自体や特に大街区の創出について公民連携等を推進することで、大規模デベロッパー等民間事業者の積極的な参入が考えられ、さらなる土地の利活用が図られる可能性があり、成果向上の余地はあるといえる。
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☒ 他に手段がない ⇒ 【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒ 【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒ 【理由】 御代志地区の土地区画整理事業に特化した事業であり類似事業はない。
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒ 【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒ 【理由】 事業計画書に基づく事業費を計上しており削減の余地はないが、交付金・補助金・起債等を最大限活用し、財政負担の軽減に努める。
	⑥ 人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒ 【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒ 【理由】 事業に対して十分な人員が確保できているわけではなく必要最小限の人件費である。削減の余地はないと考える。
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒ 【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒ 【理由】 新市建設計画で基本施策として定義されており、快適な都市基盤の整ったまちづくりを創出するもので、市の経済政策でもあることからその効果は市全域に及び公平である。
役割分担評価	⑧ 行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒ 【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒ 【理由】 御代志地区の土地区画整理事業については、減価補償地区での事業であり、公共団体での施行しかできない。役割分担は適正である。

3 評価結果の総括（CHECK）

駅前広場及び都市計画道路の整備を進め、十字交差点を供用開始した。住民との個別交渉により事業への認知度も向上してきており、着実に事業を進められていると考える。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☒現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）		(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要） <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																								